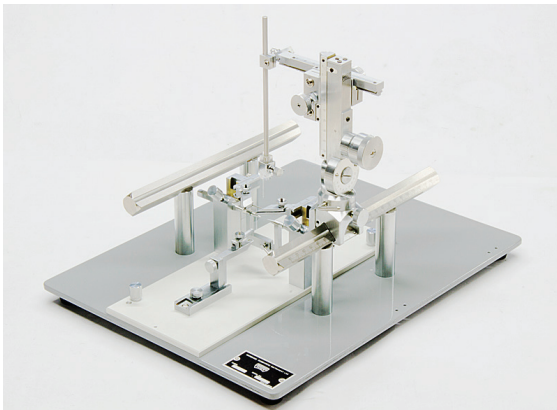


## 新製品 SR-9M のご紹介

1970年代から電気生理の分野では、単離培養細胞やスライスのパッチクランプ法などの実験系が発展し、in vitroでの基礎的な研究が多くの成果をあげました。しかし、培養細胞やスライスで解析できることには限界があります。個体の機能を解明し、臨床に応用するためにはやはりin vivoでの実験が欠かせません。その中でも、覚醒下での神経活動を記録・解析する慢性実験は、神経回路が実際に生体内でどのように働いているのか知るための強力な手段になります。

そこでナリシゲでは、従来のラット用脳定位固定装置 SR-8N に続き、慢性実験に対応する新型のマウス用脳定位固定装置 SR-9M を開発しました。



型式名: SR-9M

名称: 脳定位固定装置 (マウス / 慢性用)

付属品: SM-15 固定装置用マイクロマニピュレーター  
イヤバー、補助イヤバー、チャンバーフレーム(5個)

※ SM-15 を既にお持ちの方向けの本体のみのタイプや、脳定位固定装置を既にお持ちの方向けのベースプレートとAPバーのない頭部固定装置部分のみの販売もございます。詳しくはお問合せ下さい。

### ポイントはチャンバーフレームにアリ

マウスを通常の脳定位固定した後、頭部にチャンバーフレームをデンタルセメントのような強力グルーによって接着します。

それにより、再度の固定はチャンバーフレームを挟むだけで行う事が出来ます。

また、チャンバーフレームを付けたままケージに戻すことにより、行動実験や繰り返し実験にも対応出来ます。

※ チャンバーフレームは標準品の他、実験に合わせて特注で作製することも可能です。  
(右図はチャンバーフレーム固定部の拡大写真)



### 聴覚実験・視覚実験や、顕微鏡下での観察も可能！

チャンバーフレームによる固定の状態になれば、口鼻金具やイヤバー無しで固定できるため、聴覚実験や視覚実験などにも対応出来ます。また頭部固定装置部分のみにして顕微鏡下での観察を行う事も出来ます。



ご不明な点等がございましたら、お気軽に弊社までお問い合わせ下さい。